

# 石神地区 村政懇談会

日 時：平成29年6月28日（水） 午後7時から午後9時まで  
場 所：石神コミュニティセンター 会議室  
出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計10名  
事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員3名） 計6名  
自治会長（外宿一区，外宿二区，内宿一区，内宿二区，竹瓦区） 計5名  
自治会連合会（会長，事務員2名） 計3名  
参加者：外宿一区9名，外宿二区8名，内宿一区17名，内宿二区6名，竹瓦区5名，その他45名 計90名  
司会進行：外宿一区自治会長 吉成 幸男  
報道関係：中日新聞社 計1名  
総計115名

## 《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 石神地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 石神地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

## 《記録》

### 【4. 村長挨拶並びに村政の説明に対する質疑】

なし

### 【6. 質疑応答（石神地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

竹瓦区住民：石神城址公園の汚染土について，震災から大分経っているので下がっているとは思いますが，線量はどれくらいか。また，線量の測定は毎年行なっているか。もう一点，石神城址公園の竹瓦の方の斜面について，竹などの植物が生えている下に川があり，いつもその川に城址公園から水が染み出してくるので，大雨時には川の擁壁がいつも崩れる様な状況になっている。今後対策はされるのか。

村民生活部長：まず線量について，石神城址公園については，今手元に平成28年4月の調査結果がある。平成28年4月現在で，フレコンバックから1mの高さで測定

## 石神地区 村政懇談会

を行い、東側で0.1、南側で0.2、西側で0.1、北側で0.1で、おおよそ0.1  $\mu$  Sv/h となっている。測定は毎年やっており、例えば、参考になぎさの森公園の例を挙げると、東側で平成28年6月で0.1  $\mu$  Sv/h、平成29年1月も0.1  $\mu$  Sv/h だが、細かく見るとわずかに平成28年の方が低い数値となっている。しかし、この程度の誤差は、天気の状態などで変動する範囲である。

**教育次長**：2点目について、石神城址から竹瓦へ向かう斜面に水が染み出しているということについて、我々のほうで認識していなかったため、水路の管理者と話し合いを行い、必要があれば対策を講じていく。

**竹瓦区住民**：震災後、河口から城址公園の下の川まで、舟が2、3艘流されてくるほどだったので、その影響で崩れたのもあるだろうが、城址公園から流れ出る水の量は半端ではない。ぜひ調査してもらいたい。

**教育長**：雨が降っていないときでも水が流れているのか。

**竹瓦区住民**：その通りである。

**外宿一区住民**：村内に汚染土壌は、石神城址の他に何箇所くらいあるのか。あるとした場合、移転先の選定が非常に難しいと書いてあるが、このままの状態ですっと置いておくのか。それとも対策を考えているのか。例えば、近く国体があるが、まさかホッケー場の近くになんてないだろう。

**村民生活部長**：村内に6ヶ所ある。「石神城址公園」、白方の溜池のある「白方公園」、衛生センター付近の「なぎさの森公園」。真崎コミセン脇の「真崎古墳群」、今国体の話があったが、「阿漕ヶ浦公園」にもある。残りは「平原南部の工業団地」である。石神城址公園にあるものは、全体の1割に満たない数量である。このままの状態かという点について、どういう形なら動かせるか、環境省とやり取りをして検討している。国体が目の前まできているので、阿漕ヶ浦公園については、早急に移動したいと考えているが、どの置き場所なら村民全体にご理解いただけるかが重要なので、勝手に村の方でここでいいだろうとはいかない。なので丁寧に説明し、ご理解を得るために、もう少し時間が必要である。

**村長**：置いてあるのは、除染した土壌と枝葉である。その中で枝葉は焼却していいと言われている。しかし、東海村には焼却施設がなく、ひたちなか市のクリーンセンターで燃やすことになる。そうすると、その付近に住む人々には不安がある。除染したものは指定廃棄物ではないので、0.23  $\mu$  Sv/h に下げるために除染して、落ち葉などをさらったものが入っている。なので、土は難しいが、枝葉はなるべく焼却して量を減らす。では土壌をどうするかという問題になってきて、先ほど空間線量の話が出たが、結局何ベクレルなのかは、また測らなくてはいけない。今は色々な機械があって、フレコンバックを丸ごと測れるものもある。そういった研究開発は進んでいるが、福島の間貯蔵施設に持って行くのもなかなか難しい、環境省も福島の場合を考えていて、除染したものについてはなかなか腰が重く、優先してやらなくてはならない

## 石神地区 村政懇談会

ものが多くあり、後回しにされている。ただ、阿漕ヶ浦公園のホッケー場のすぐ脇にも置いてあるので、平成31年までには動かさなければならないが、移動途中に飛散しても大変なので、どうやって動かすかと、濃度の確認をしてからでないと勝手にはできない。国の方には色々な機会に言っただけはいるし、担当ベースでは環境省ともやり取りをしているので、できるだけ減容したうえで、さらに残った土をどういう形で安全に動かすかということについてはもう少し時間がほしい。いずれにせよやる。

**竹瓦区住民：**久慈川右岸について、冠水しない道路を整備していただきたいが、現在どのようにするか具体的に考えている内容を説明してほしい。この道路はかさ上げが必要である、あるいはかさ上げすると溢水した水を食い止めてしまうのでまずいとか考えているとは思いますが。例えば、石神城址公園にのっかっている村道が、昨年のように冠水し、かなり地盤沈下している。昨日の雨が本日も溜まっている状況。そういったところを今後調査してほしい。協議では遅い。それと、安心サポーターの話がでたが、竹瓦区で日曜に避難訓練をした。安心サポーターに要支援者宅を廻ってもらって、状況を把握してもらった上で避難開始した。一方で、津波などでは自分の命をまず守れということで、安心サポーターが援護を必要とするところを廻って、助けて一緒に逃げようという時に浸水したらどうするのか。そういうわけで早急にまず一本で良いのでお願いしたい。

**村長：**防災対策は大事。前に言われたが、避難タワーのようなものでもよいとの話もあった。そういったものも含めて一時的にでも高台へ行けるといようなことは考えている、道路も実際にかさ上げするとすると、時間もかかる。避難タワーも人工物がいいのか、ある程度土盛りしたようなものがあるのか、やり方は色々あると思う。あの場所の景観を崩したくもないし、一時的に高台になるようなところも同時にというと、やり方を考えなくてはならない。いずれにせよ、人の命に関わることなので早急にやりたい。

### 【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

**外宿一区：**基本方針の中にある人財の掘り起こしについて、先ほど高齢化の話が出ていて、自治会には地区自治会、単位自治会があるが、一時期はまちづくり協議会という話もあった。そういった中で、自治会の加入率についても話されてきたが、悪いところでも46%。つまり、地域のほぼ半分は自治会、自治会長が掌握している。今後自治会が高齢化に向かう中で、自治会の在り方について具体的に話してもらいたい。

**村長：**まちづくり協議会の話が出たが、地区自治会がメインで頑張ってきたが、地区自治会だけで多くのことをやることは大変だということで、もっと色々な人たちが関わった大きなまちづくり協議会のようなものを作ってはどうですか、という提案はした。ただし、現在地区自治会は様々な活動を行っていて、それなりに機能している。地区社協もあるし、村民会議支部の活動もある。それぞれ本来は別の団体だが、同じ

## 石神地区 村政懇談会

地区自治会の中で協働でやっており、地域でやることは大体その中でやれてしまっているのですが、そこにまた別の組織を作らなくてもよいというのが大方の意見でこれまできている。今回私がその話をしたのは、今の若い人が単位自治会へスッと入ってくるのが難しくなってくるのでは、というところからである。そこを維持しなくてはならないという気持ちは強いが、そこだけとなってしまうのもどうなのかなと思う。地域で活動している方の中には、特に自治会にかかわらず活動している方がいると思う。環境活動なんかは、仲間同士だけでやっている方もいる。そういった方が、環境活動だけでなく、そういった活動を地域で行なうときに、福祉や子育てのような他の分野でも協力できませんかね、という声かけが広まってくるといいのかなと思う。本来は単位自治会ですべての分野を掌握すればいいのだろうけど、単位自治会ばかりに求めていくのは難しい。単位自治会を壊したくない。単位自治会にこれ以上のことをしてもらってしまうと、単位自治会がパンクしてしまうだとか、後から入ってくる人がすごく不安感をもってしまう。きちんとした地縁団体は残しつつ、緩やかな組織というか、関係性を作れないのだろうかと考えている。若い人で、自治会という組織にはなかなか入りづらいけれども、子どもを見守るなら手伝いますよとかいうような人が、もう少し増えてきたらいいと思う。年間通しては難しいが、イベントだけスポット的になら手伝いますよとか、そういった人を呼び込める形がいいのかなと思う。まだまだ模索しているところで、どうすればいいかまだ結論は出ていない。現状として、皆さんの地域でだれがどんな活動をして、その活動がこれからも続けられるのか、活動同士が手を繋ぐことはできないのか、というのはどこかで見定める必要があると思っている。まずはそのきちんとした現状認識と、情報を共有し、それぞれのやっていることを一緒にやったらもっとうまくいくよね、ということができればいいと思う。やはり、地域の未来を考えていくことがやれないかと思う。6学区の中で、新しいものに取り組んでいるのが真崎である。真崎には真崎の自治会があったり、フレッシュ会やみさき会などの色々な会があり、そことは別に、真崎の未来を考える会という枠組を作ることで、若い人が入りやすくなったり、地域のことを考えるようなことをやっている。地域の未来を一緒に考えて行きましょうということであれば、皆さん一緒にテーブルに着けると思うので、次の時代に向けて、皆で一緒に考えませんかということ話し合う場が必要である。今は何とかできていても、5年後10年後に地域にコミュニティが維持されて、それなりに社会的機能が健全に保たれるためにはどうすればいいのか、それを今から皆さんと一緒に考える時期にきている。

**竹瓦区住民：**東海村は原子力発祥の地として、ガンマ線のマークを村章として使っているように、昔は原研、動燃、原発と言っていたものだが、昭和38年当時の人は定年になり、ほとんどいない。村長は原子力人材の育成と書いているが、東日本大震災の時の福島原発事故後に就職する人はほとんどいない。今、原研のJRR1から3まで、みんな廃炉である。この前大洗の常陽で、専門家が汚染された。東海村でもそう

## 石神地区 村政懇談会

だが、原子力の施設が古くなっている。これをどうするか。それから、研究炉がなくなっている。原子力発祥の地として、原子炉をつくる予定があるのか。原子力の将来について、村長がどう考えているか聞きたい。

村長：JRR1, 2, 4は廃止。JRR3は規制庁へ審査を出している。なので、審査が通れば、あの研究炉はもう一度動かせる。改良し、動かせるといっても、年数も経っており、いずれ寿命がくると思っている。発電所の問題はあるが、原子力の研究開発は続けていくべき。原子炉については色々あるが、加速器の方がどんどん脚光を浴びていて、そちらで色々研究開発できるということだが、原子炉じゃないとできないこともある。これはJAEAないし文部科学省が考えることだと思うが、放射線の有害度の低減や核変換なども、加速器でもできるが、原子炉がなくてもよいのかは、様々な議論があると思う。国でもその辺りは考えているが、どういう設備で、この後の研究開発を進めていくかは大きな課題である。ただ、研究開発は続けていく必要があると思うし、地層処分の問題も含めて課題もあるが、そのために原子力研究開発機構は研究を続けているので、その研究に必要な手続は講じていく必要があると思う。

内宿二区住民：私は石神地区自治会発足当時から部会活動をしてきて、2年前に自治会役員に出されてからは、地区自治会、それに付随して地区社協、青少年育成委員長と、務めさせてもらった。前に村上村長が言った言葉が二つあり、一つ目が「東海村の職員は村民の方を見て仕事をしている。」というもので、この言葉を思い出すような出来事があった。その出来事とは、昨年度末から今年度にかけて配られた、専門サポーター制についてという資料だった。去年まで自治会活動は、青少年育成村民会議も地区社協もひとつの部会としてコミセン職員が事務局となって、一体でやっていた。今年になって、社協と青少年センターは、それぞれの関係課で、専門サポーターという方を雇って、コミセンに常駐させると。そして、自治会はコミセンの職員が対応するというので、一元管理が二元管理になったという状況である。私は社協関係をメインでやっているが、何件かトラブルが起きているし、次の会議を計画しようにも、非常に気を使っている状況。村長の話にあった業務改革で、役場の仕事が楽になっても、地域の住民の負担が大きくなってしまっただけでは何にもならない。地域の住民がやりやすい形態にしてもらうのが良い。この問題については、真崎区の村政懇談会で事前質問として出ているので、今日の回答は結構。要望のみ伝えておく。もう一点、二つ目の村上村長の言葉として、「東海村は日本一の福祉の村を目指す。」という話があった。同じ社協の話で敬老会についてだが、この話を伺って愕然としたのは、今、75歳以上は多かれ少なかれ記念品を頂いていたという話を聞いている。敬老会が、人数が多いのでできないという話はわかる。だが、75歳から5年で80歳、今度は8年待って記念品が出る。その次は100歳で、12年待たないと記念品が出ないという状況になる。この年齢以外の方は、村からの敬老のお祝いが出ない。それではあまりに落差が大きすぎると思う。数万円の現金や商品券ではなく、広く薄く配るというの

## 石神地区 村政懇談会

もある。後は、75歳という年齢を多少引き上げるのは時代の流れで仕方がないが、広く薄くなるべく多くの人に届くような施策をお願いしたい。

**村長**：地区社協と村民会議支部の事務を行なう者を今年度変えたのは事実。昨年私は、地区社協の担当職員を村社協に置いてよいと思っていた。そして、村民会議の支部の事務を執る者を村民会議の本部に置いてよいと思っていた。コミセンが皆さんにとって、活動の拠点だという思いを汲み取れなかったのは反省している。各コミセンに専門サポーターを配置したが、結果的に中途半端な形になってしまったのも反省している。今までコミセンは、自治推進課が所管している公の施設という位置づけであったが、元々地域の拠点だという思いが強いのだと思う。そうなるべく、この施設のあり方や目的を思い切って変えないとだめだと思う。役所の理屈でやっている管理の仕方と、地域で思っているコミセンの在り方がずれている。地域にとってこの施設をどうしたいというのがあれば、この施設の目的やあり方を変えなければならない。そういう時期なのかなと思う。今までは元々の公の目的があったので、それに準拠して整理しようと思っていたけれど、それは役場の発想なので、逆転して、地域の人たちにもう一度問い直して、地域にとってどういう施設にするか見直す。

敬老会の話について。最終的に、75歳以上の方皆さんに、記念品を贈るのは構わないが、文化センターにわざわざ集めて、式典をやって、私が来た方々にお祝いの言葉を述べるといふのは、高圧的だと思った。地域の方々がお祝いしてくれているので、その方がいいだろう。他の市町村だと、100歳到達などは首長がお宅へ伺う。今の東海村のスタイルは、100歳以上の人も来たら、文化センターで皆の前で私から渡すが、それだと私がわざわざ集めてやっている感じがして、おかしいと思ったので、それで地域で、と単純に思った。対象者が増えているのも確かだが、わざわざ集めるのもおかしい。「私が各地域に行きますから」、「私のほうからお礼を言いますから」という思いがある。到達した際の記念品については別に考える。そういった思いがあって、ずっと同じスタイルを続けていけばいいとは思っていなかったもので、見直しを考えているというところなので、中身については、皆さんのご意見を伺って、考えていく。

**内宿一区住民**：8月27日に村長選投開票となるが、所信表明をお願いしたい。

**村長**：自治会連合会と共催ということで、行政的な意味合いがあるので、それはなかなか難しい。いずれにせよ3月議会で、2期目に向けてという話はしている。4年間やってきたが、まだまだ課題は多いし、今色々な質問が出て、課題を作ってきてしまった部分もある。それは自分の責任として、整理していかなくてはいけない。11月に家を建て、4月から家族で住んでいる。私の住んでいる所はこことは違う部分もあるけれど、家族で住みだして、常会の方と会ってゴミの問題なんかを話していると、私もだんだんと生活感が出てきて、切実に思うところもわかってきた。皆さんと同じ村民になったという事で、さらにそういう中から村をどうしていくかをきちんと皆さ

## 石神地区 村政懇談会

んに訴えていきたい。

**竹瓦区住民：**今日もシルバーリハビリ体操をふれあい食事会で行なってきた。会員は皆効果をわかっているが、村民の多くはわかっていない。なので、広報とうかいを利用して、リハビリ体操でこういうところが良くなっているといった記事を書いてほしい。

**村長公室長：**すばらしい事業が多くあると思う。それについては適切な広報活動を行い、村民に周知していく。また、ツイッター、フェイスブックなどのSNSでも情報発信していく。

**内宿二区自治会：**ぶり返しになるが、汚染土壌の問題で、石神城址公園を含めて6箇所あるということだが、その具体的な場所と近隣の方が近くを通った際に、何メートル以内に近づくと危険であるという表示はあるのかを聞きたい。もしなければ設置してもらいたい。

**村民生活部長；**まずは「白方公園」、次に「豊岡なぎさの森公園」というのが衛生センターの脇あり、「真崎古墳群」が真崎コミセンの細浦側にある、あとは「阿漕ヶ浦公園」には、新しくしたホッケー場の脇に、こども広場のようなソフトボールができるようなところがあり、そこに置いてある。「平原南部」というのは、文化センターからサイクル研に向かう途中の信号を曲がると公園があり、その公園にある。どういう状態かという、下に遮水シートが敷いてあって、その上に1トン土嚢のようなフレコンバックがあって、その上にまたシートが被せてある。周りは一間くらいの高さのフェンスで囲われている。基本的に入ってはいけないというのはわかるだろうし、どれくらいの放射線量なのかは貼ってあるが、そういったところは更新しないといけないので、ご指摘の通り、現場を点検していきたい。

**内宿二区住民：**最近メディアを賑わしているテロだが、今回笠松運動公園で国体の開会式がある。また、ホッケーもやるということでかなりの人数が集まる。東海村には原子力施設がたくさんあるということで、国のほうではテロ対策を考えているとは思いますが、村独自で考えはあるか。

**村長：**今のところない。心配だが村が独自でなにかやるというのは考えていない。確かにたくさんの方が来るが、それは一方で村が盛り上がることである。しかし、セキュリティ上のチェックをどうするかというのは考えなければならない。今意見を頂いたので、役所の中ではなかなか結論が出ないが、県や国のほうと、自治体として何ができるか相談してみたい。

**内宿一区住民：**出席者の同意が得られれば、願いがある。せつかくの機会なので、各部署から一言あれば、トピックスのようなものを話していただきたい。

## 石神地区 村政懇談会

**副村長**：村の抱えている課題は、先ほどから質問が出ているようにたくさんある。一つ一つ丁寧に解決していかないといけない。個人的に考えているのは、今世間でも騒がれている、団塊の世代が75歳を迎える2025年に近づき、高齢者が増えていることについてである。今東海村では4人に1人が65歳以上になっているかと思うが、これがさらに多くなるにつれ、認知症の問題なんかも含めて、高齢者対策に関する問題が増えてくると思う。ここをどうにかしていかなければならないが、一方で、将来の社会保障に対し、非常に不安に思っている若い世代に対する施策も考えていきたい。高齢者対策は高齢者対策としてしっかりやっていかななくてはならないが、世の中がきちんと廻っていくためには、若い世代が増えていかなければと思うので、若い世代に対する施策を考えていきたい。

**教育長**：二点お話しする。一点目は（仮称）歴史と未来の交流館について。先ほど、村長説明の中で力強い言葉をもらったので、教育委員会で頑張っけてやっていきたい。副村長の話にもあったように、私も7年後の2025年には75歳になる。自分の将来も不安であるが、高齢者を支えていく若者たち、具体的にはしっかりと地域に貢献し、税金を納めて、地域で活動できるような子どもたちを、未来への投資ということで育ていかなければならないと思う。なぜそういうことを言うかということ、これからの社会というのは、先が見えない。我々の時代は、大学の教育学部に入れば教師になれるだとか、工業高校に入れば原子力機構に入れるだとか、先が見えた。しかし、これからの時代は見えない社会である。だから、自分の目で、自分の耳で、自分の足で行って確かめるといような子どもたちを育てていかなければならない。そして、これからは多様性の社会であり、色々な人が入ってくる。そういった中で一番大事なのは、東海村の歴史や文化を知っている子どもたちを育てていかないと、国際社会で通用しないのではないかと思う。そのための施設として、（仮称）歴史と未来の交流館であることをご理解いただきたい。二つ目は、石神小学校は、6学年あるうち、2つの学年で1クラスになってしまった。1年近くで50人近く減ってきている。照沼小学校は、村内全域から生徒を集める形で、1クラス最大25人で、小規模特認校とする。そういった特色をだして、地域の中の学校としてやっていこうとしている。石神小学校の生徒数は300人を切った。これまでは開かれた学校づくりでやってきたが、これからは地域とともにある学校づくりを目指す。その一つが、コミュニティスクールで、その方向に進めていこうと思っている。そのモデルとして、村松小学校で今年度から準備していく。どういったものかということ、学校の中に、学校運営協議会というものを設置して、そこに例えば、地元の自治会長やPTA会長に入ってもらったり、真崎でいえばフレッシュ会であるとか、NPOなど、色々な団体に入ってもらったりして、自分たちの学校をどうしていくかを話し合う。例えば、石神小学校の校長が、こういう風な学校づくりをしたいとプレゼンし、地域の方から意見をもらいながら、地域でこう関わってほしいと依頼し、どうやって子どもたちを育てていこうか、また地元に戻ってくるような子どもを育てるか、ということで、今年度村松小学校でモデル

## 石神地区 村政懇談会

をやって、来年コミュニティスクール第一号として取り組んでいく。その他の学校については、来年度から準備を始め、平成31年度にはすべての小中学校をコミュニティスクールにしていく。何度もいうようだが、開かれた学校ではなく、地域と一緒に学校づくりをしていきたいと思います、子どもたちを育てていこうという学校づくりを目指していきたい。

**村長公室長：** 昨年の石神地区の村政懇談会で、広報紙の文字が見づらいという意見があり、村として取り組みを進めている。昨年から一年近くかかってしまっているが、広報紙の印刷は業者と年間契約を結んでいるため、途中での仕様変更が難しく、今の時期になってしまい申し訳なかった。村としては、障がいのある方や、高齢の方など、どのような人でもわかりやすいフォントで7月25日の広報紙から見やすく、読みやすいものにする。その他に、先だって申し込みを締め切ったが、プレミアム商品券を1万冊用意したところ、多数の応募をいただいた。村経済の活性化に繋がれば嬉しい。

**総務部長：** 総務部は、総務課、人事課、税務課というハード面の整備ではない部署ということから、あまり皆さんの目には見えない部分が多い。石神地区に関わることで、平成26年度から、地域との交流研修ということで、採用して2、3年の若い職員に、地域住民とお祭りなど一から関わって、地域を一緒になって盛り上げていくことを経験してもらい、視野を広げ、後々行政へ活かしてもらおうということで取り組んでいる。今年度は石神地区に2回目となるが2名お世話になるのでよろしく願いしたい。参加する職員全員が村出身ではないので、まずは地域を知ることが、今後働く上で大事になってくることから、村民との協働に関わることで、行政に活かしていけるようよろしくお願いしたい。

**村民生活部長：** 先ほど村長から、地域の担い手不足だとか、地区の活動ができるのかだとか話が出たけれど、自治推進課で今年目標とし取り組んでいくことになっている。村長が言ったことについては、我々が手足となってやっていくのでご理解いただきたい。環境政策課についても、干しいもの残渣などをカラスのエサではなく、どうしていくかということに取り組んでいる。また、生物多様性や東海環境村民会議の支援などもしている。防災原子力安全課では、広域避難訓練の実施や基幹避難所のバスの手配に合わせた駐車場整備もやっていきたい。住民課では、マイナンバー、消費生活、DV問題などに取り組んでいる。何かあれば相談してほしい。

**福祉部長：** 福祉部は、福祉保健課、介護福祉課、健康増進課、子育て支援課ということで、守備範囲が広がっているが、その中で一つだけ宣伝をさせていただく。先ほど村長の話しでもでたが、東海版ネウボラということで、ネウボラとはフィンランド語で相談とか助言などの意味があるが、そういった拠点として、「子育て世代包括支援センター」、愛称「はぐ♥くみ」を保健センター内につくった。現在そこで様々な相談業務を行なっているので、若い世代に多めに利用してほしい。

**建設農政部長：** 名前の通り、公共施設から農業まで、皆さんの生活に深く関わっている部署なので、皆さんと取り組んでいきたい。日曜日に久慈川一斉クリーン作戦を予

## 石神地区 村政懇談会

定しているので、参加をお願いしたい。

**教育次長：**教育長が話した内容以外で話をする。A I ・人工知能というものが注目されている。A I が将棋や囲碁のプロを破ったという話もでてくる。中学生の藤井プロもゲームソフトの将棋などを参考にしながら新たな手をつくるというような話も聞いている。これからの子供をどのようにしていくかということでは、今までは認知型能力、つまりテストで点数を取る記憶力だとかを評価していたが、これからは非認知型能力ということで、例えば、意欲だとか粘り強さ、協調性などを伸ばしていく教育が大事だといわれている。教育委員会の方でも、そういった非認知型の能力を伸ばすような学校教育を進めていきたい。それから一点PRさせていただくと、先の世界卓球選手権、ドイツのデュッセルドルフで行なわれた混合ダブルスで吉村真晴選手が48年ぶりに金メダルを取った。それで8月5日土曜日に、吉村選手が東海村へ凱旋報告をしに来てくれる。当日総合体育館はプールも開かれており混雑しているので、ぜひ乗り合わせで来てもらいたい。

**議会事務局長：**現在、議員の定数と報酬について、「議員定数と報酬に関する調査特別委員会」をつくっている。町村の議会は、小さいところでは議員のなり手がなくて、町村総会というものを議会に代わってつくろうかということが世の中で話題になっている。このような問題を踏まえて、定数と報酬について、10名の議員が検討中である。時期については、平成32年の1月31日に任期を迎えるので、それまでには結論を出したいということで検討している。

**内宿二区住民：**今日は道路問題なんか出すなと言われていたが、地域から出された提案には、住民の意思が詰まっている。そのへんを察して対応してもらいたい。役場の仕事は遅い。私も施設部門にいたが、民間企業からみればそうなのである。予算の関係もあってそうなってしまうのかもしれないが、検討中とかいう回答はいい。いつやりますという回答が欲しい。できませんならそういう回答をしてもらいたい。

以上